

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	和歌山県
-------	------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	那智勝浦町立下里小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	18	24	10	18	22	16	2	110	

研究の概要

1. 研究主題

<p>学ぶ喜びと楽しさを感じ、確かな学力を身につける子ども ～ 読み書き計算を中心として ～</p>
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>・全学年・算数 平成14年度末に実施した学力テスト（標研式CDT）の結果，児童の理解の状況・基礎学力の定着の差が見られた教科であるため。</p> <p>・全学年・国語 本校独自に実施した国語科・生活実態調査の結果から，国語科において数点の課題克服の取り組みの必要性が認められたため。</p> <p>本年度は，算数科の研究を重点的に行う。</p>
---

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>算数科： 基礎的な計算力を育てる。 国語科： 豊かな表現力を育てる。</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>算数科： 複数教員による指導（TT）を充実することにより，児童一人ひとりの学力を引き上げることが可能となり，ひいては全体の学力の向上につながるであろう。 国語科： 国語科の活動を活発にすることが，すべての教科等の基礎となる読解力・表現力を育て，他の教科の基礎基本の力の定着が促進されるであろう。</p> <p>研究の内容</p> <p>算数科： 全学年・全時間複数教員による指導（TT）を実施し，適宜，習熟度別指導等を取り入れ，きめ細やかな指導を行う。 本年度は，支援を要する児童の基礎的な計算力を育てる取り組みを中心とした研究を主な目標とする。 発展的な学習や補充的な学習など，個に応じた指導のための学習教材を工夫する。</p> <p>国語科： 実態調査から明らかになった「話す・書く・表現する」力の不足をじっくりと育てるため，週3日の朝読書（読書タイム）を導入する。</p>
--------	---

漢字力を育てるため、指導方法の見直しを行い、定着率を高めるための工夫改善を図る。

学級会・児童集会の運営方法を見直し、発表力・表現力を育てることを主とした取り組みを行う。

#### 研究の方法

##### <基本姿勢>

- ・ 研究主題を念頭に置いた、日常の指導実践の充実。
- ・ 研究グループによる日常的な授業研究・教材研究の実施。
- ・ 全員一回ずつの研究授業実施。

##### (1) 先進校視察

先進校視察によって学んだ実践活動を校内実践に生かすため、視察後速やかに実践報告会を開催する。

##### (2) 児童の学力に関する実態把握

に記載

##### (3) 参考文献による理論研究

指導実践に関する参考文献による理論研修を、校内研修の中で計画的に進める。また、評価に関する理論研修も同様に計画する。

##### (4) 好ましい学習環境づくり

生活・学習環境部会を設置し、学校生活を快適に過ごせるよう施設設備の工夫改善を行い、学力向上を促進する環境作りを進める。

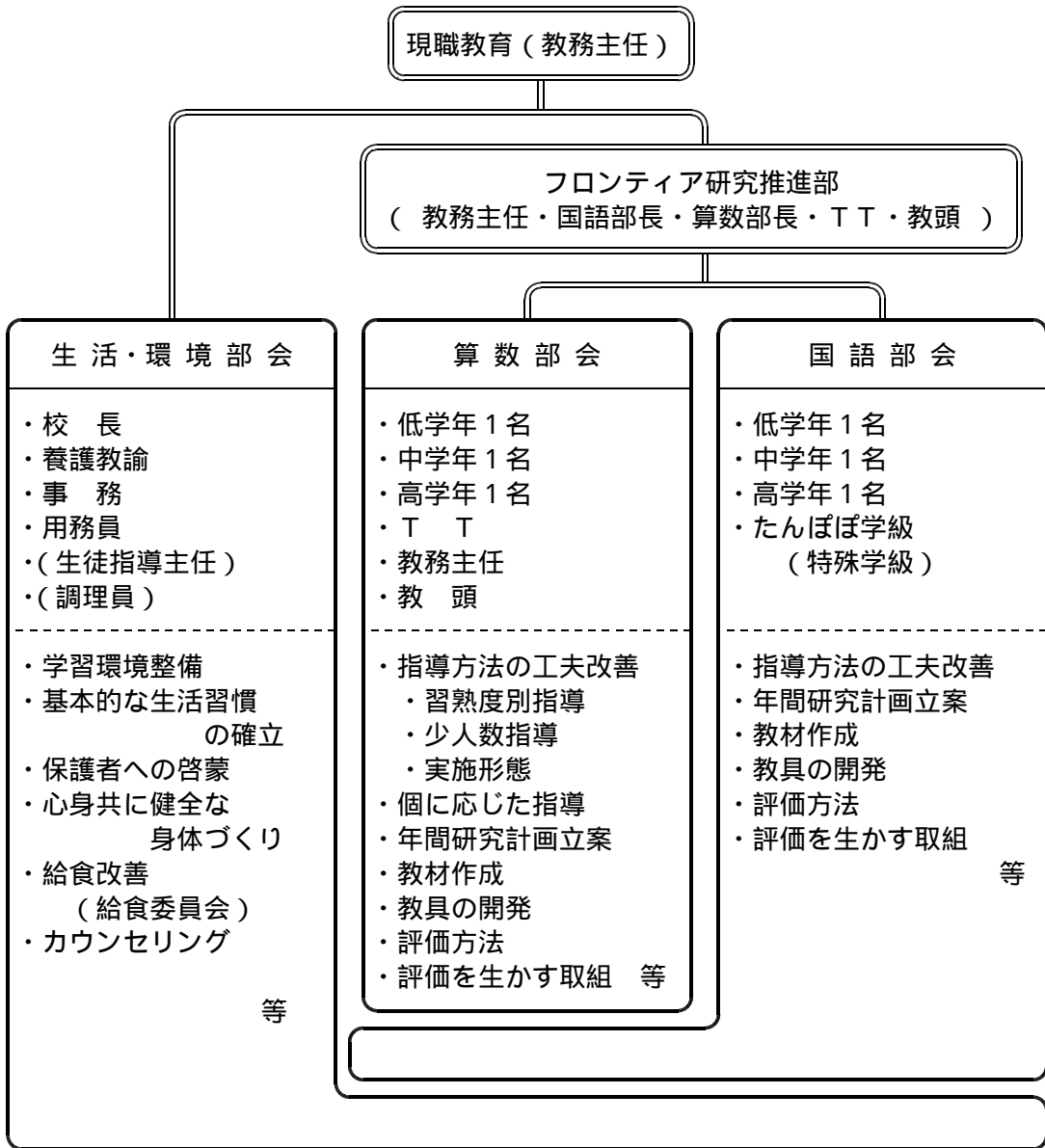
##### (5) 教材開発

算数科計算領域の教材プリントの作成と保管

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>算数科：確実な計算力を育てる。 国語科：豊かな表現力とコミュニケーション能力を育てる。</p> <p>研究の見通し</p> <p>算数科： 複数教員による指導（TT）を更に充実すると共に、担任1人による学習指導に、TTの優れた実践を積極的に取り入れることが、教師の教育技術向上を促し、児童の学力向上につながるであろう。</p> <p>国語科： 国語科の活動を多様に幅広く展開することにより、読解力・表現力が育ち、コミュニケーション能力が育成されるであろう。</p> <p>研究の内容</p> <p>算数科： 全学年・複数教員による指導（TT）を計算領域を中心にを行い、適宜、習熟度別指導・少人数指導等を取り入れる。確実な計算力を育てる取り組みを中心とした研究を行う。発展的な学習や補充的な学習など、個に応じた指導のための学習教材を工夫改善する。</p>
--------	--

<p>国語科：</p> <p>他：</p> <p>研究の方法</p>	<p>朝読書（読書タイム）の継続。 漢字力を確実にするための工夫・研究。 発表力・表現力・コミュニケーション能力を育てるための研究の推進と実践。</p> <p>図書館教育の充実 家庭学習の在り方 生活習慣の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成15年度の基本姿勢の継続</li> <li>・各研究体制の見直しと工夫改善</li> </ul>
------------------------------------	---

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

算数科における複数教員による指導により、

- ・ 理解に時間を要する児童に対して、複数で指導することにより個別指導の充実が図れた。
- ・ 支援を要する児童のつまずきや手だて等、個々の課題を明確にとらえることができた。
- ・ T2が児童一人ひとりの自己評価カード等で理解度をチェックすることができ、基礎学力の定着を図ることができた。
- ・ 一斉指導、グループ学習、習熟度別指導等、個に応じた多様な学習が可能になった。
- ・ 習熟度別指導により、高学年で計算手順に多くの課題を抱えていた児童のつまずきをかなり克服することができた。
- ・ 質問・疑問をその場で出すことができるため、理解が進み、課題を解決しようとする意欲が育っている。
- ・ 教材教具作成を複数ですることにより、より吟味したものができた。
- ・ 他教科の学習においても、意欲的に取り組む児童の姿が多く見られるようになった。

朝読書の実施により、

- ・ 読書量が飛躍的に増加した。
- ・ 学習態度に落ち着きが見られるようになった。
- ・ 時刻を意識して行動できるようになった。

### 2. 今後の課題

- ・ TT学習をより効果的なものとするため、担当者と担任との反省・打ち合わせ時間の確保。
- ・ 数と計算領域の力を確実にする指導法の探求。
- ・ 数学的な考えかたを育てる研究。
- ・ 支援を要する児童への補充学習時間の確保。
- ・ 個に応じた指導や楽しく学習できるための教材開発。
- ・ 発展的な学習の問題づくり。
- ・ 他教科を含めた指導方法の工夫改善。
- ・ 家庭学習の充実。
- ・ 本事業に一層の理解を得るための保護者への有効な働きかけの方法。

### 学力等把握のための学校としての取組

本校作成の計算力診断テスト（1月末）

各学年で指導した基本的な計算問題のテスト実施と分析及び指導

学力テスト（標研式CDT）の実施（2月下旬）

昨年度と同じテストを実施し、結果の比較検討を行い、成果・課題を明らかにする。

和歌山県学力診断テスト（11月26日）

診断テストの結果を県・郡・町と比較検討し、今後の取組に生かせるよう分析を行う。

また、その結果を平成16年度の研究内容に反映する。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業 日 時 : 平成15年11月11日(火)  
場 所 : 下里小学校(本校)  
内 容 : 第4学年算数科の公開授業と研究協議

中間発表 日 時 : 平成16年 2月20日(金)  
場 所 : 下里小学校(本校)  
内 容 : 第5学年の公開授業  
全体会(研究経過報告・研究協議 等)

## 研究成果普及

HPにより紹介予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	